

平成23年第4回定例会（12月）一般質問

（2）月形町の歴史遺産を活かすまちづくりについて

1.ビジョンと施策

○ 議員 宮下 裕美子 引き続き2点目の質問に入りたいと思います。月形町の歴史遺産を活かすまちづくりについて、最初はビジョンと施策についてお伺いいたします。

月形町の歴史遺産は価値が非常に高いものであるということを認識しています。樺戸博物館には学術的価値の高い資料がたくさん保存されていたり、規模や質的にも他にはない博物館である。また樺戸集治監と囚人労働による北海道開拓の歴史は月形から始まったという事実。そして社会的に囚人開拓が北海道開拓の基礎であるという認識になってきた。そのように認識を拡大させたという意味で、月形町にとって歴史遺産は大きな財産であり、それを過去から発掘し育ててきた熊谷正吉さんをはじめ先輩たちの努力と実績、そしてこれを町内外に知らしめた櫻庭町長の功績は大きいと認識しています。しかし、現状において多少問題もあると思います。月形町の歴史遺産を題材に様々な活動が展開されていますが、活動や事業がそれぞれ独自の団体の目標に向かって展開されているだけで、それらを連携させつなげていくことは、極めて薄いと考えています。町内には郷土史研究会、歴史伝承事業、田園空間博物館事業、観光事業やホームページでのPR、副読本に使うなど様々な展開されているのがその例です。それから月形町総合振興計画には愛着と誇りを育む故郷づくりで観光拠点を活かす歴史資源や文化の活用、歴史を活かしたまちづくりと謳われていますが、月形町総合振興計画は漠然としたもので、具体的イメージを持ってないままです。現状では歴史遺産の活用とまちづくりが結び付いていない。具体的に行政と町民が共有できるビジョンがない。また基本的構想と実際の活動をつなげるロードマップ、つまり具体的施策を管理する進行表のようなものが不足していると感じています。

そこで町長にお伺いします。町長が常々口にされる歴史遺産を活かしたまちづくりですが、そのビジョンとそれを実現させるための施策、言い換えるとロードマップですが、それらはどのようになっているのでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 最初にビジョンが無いのではないかとということですが、宮下議員の質問の中にも総合振興計画のことを言われていました。私たちが持っている町の基本的な最高位は総合振興計画ですし、第4章においては、活力ある地域産業づくり3節観光の振興の中で歴史や文化資源の活用ということで、これは明治樺戸集治監に代表される本町特有の

歴史や文化を観光資源として積極的に活用して行きますということで、歴史文化の観光資源化を謳っているところであります。第5章においては、新しい時代を拓く人づくり 3節 社会教育の推進の中で文化財の保護ということで、先人が残した貴重な文化財を後世に引き継ぐとともに、文化財に触れる機会を拡充しますということで、文化財の保護と樺戸博物館の活用を謳っているところです。第6章においては、愛着と誇りを育む故郷づくり 1節 協働社会のまちづくりの中で歴史を活かしたまちづくりの中で歴史の学習と継承ということで誰もが郷土愛を描き、高めるために町の歴史を学ぶ機会を拡充するとともに、歴史施設や資料を保存し、後世につなげていきますと謳っております。もう一つが歴史資源の保存と活用ということで、全国的にも珍しい成り立ちをもつ本町の歴史的資源を保存し、まちづくりにおいて効果的な活用を図っていきます。これらが総合振興計画です。これに基づいて実施計画を組んでいるところです。そして実施計画についてはその時の予算や状況によってローリングしながらやっていますが、今までやった内容としては平成21年に130年に向けてということで、町勢要覧については歴史をテーマとした町勢要覧を発行したところで、要覧を見た多くの人たちが月形町の歴史が良く理解できたという評価につながっていると考えているところであります。開町130年記念行事の中で円山の記念植樹は、囚人や監守の人たちが開町10年後に望郷の森として育て上げた120年経過している杉を、次の世代に受け渡すという意味で1300本の植樹を、小学校・中学校の生徒も一緒に植樹したところです。また記念式典においては、町内外の多くの皆様に集まっていたところですし、小学生には八木節の演奏、中学生には町歌の唱歌をしていただいたところで、この折には博物館の無料開放等もやりました。本年につきましては「北海道地域創造フォーラムin月形」ということで、これが第4回となる北海道地域創造フォーラムについては、特徴あるフォーラム、パネラーとして参加される皆さんが共通のテーマでそこから話を深化させるということで、残念ながら思いの外そこまでの進行には至らなかったと考えていますが、第3回目までの地域創造フォーラムとはしっかり違ったかたちでパネラーが同じテーマに向かっていくというフォーラムをやらせていただきました。それぞれが集治監をもってスタートする町の歴史から町を創っていくということでありました。それと同時に「月形歴史物語」という平成22年から平成23年の2か年に渡って町のホームページで歴史コンテンツとして配信していたものを冊子化し配付させてもらったところであります。また平成20年から平成22年については、歴史伝承事業ということで5回に渡り熊谷名誉館長、北海道開拓記念館学芸員、作家成田智志さん等々の皆さんに講演をしていただいたところでもありました。毎年行われている樺戸監獄物故者追悼式についても、22年は130年ということで、23年については地域創造フォーラムということで来町されるお客様の幅を広げ

て、月形町から始まっていく北海道の歴史ということを展開させていただいたところでもあります。これらの事業展開の中で、私たちはしっかり第一部としての事業展開が終わった、今後につきましては第二部としてより一層歴史伝承会、特別展、博物館のリニューアルを含めて歴史展開していくことが大事であると考えております。それを含めて総合振興計画については、各戸町民の皆さんにも配付した資料であると思っていますし、それを持って問題意識、歴史に対する思いが共有していないとは考えておりません。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下 裕美子 今、町長から様々な説明があったのですが、私としては、今町長が説明したものは個別事業の説明であり、それらを統合したまちづくりへつなげるビジョン、ロードマップと意味合いが違うと思います。振興計画が月形町のビジョンであることは受け入れたとして、最終的に愛着あるまちづくりや歴史を活かしたまちづくりと総合的な未来像があるのなら、今ある個別事業をどのように関連づけ展開させていったらそこに到達するかという途中のプランがきちんと示されなければ、ビジョンを共有できていないと考えます。これは他の町の事業で参考にさせていただきたいのですが、今年10月に議員の視察で博物館網走監獄に行ってきました。その時、様々な説明を聞いたのですが、博物館網走監獄は今まで観光施設としてやってきたけれど原点に戻ってこれからは本来の博物館事業に転換を図って行きたい。なぜそのように思ったのかというのは観光の切り口だけでは住民のためになりにくい、住民が目を向けなければ将来的に観光客は来ないという発想になったと言っています。そこで住民が博物館網走監獄に目を向けるために様々なイベント展開や文書の発表、文化財の指定をしてPRしていくというきめ細やかな情報発信に力を入れていました。それからターゲットを絞った様々な企画を展開して、小中学生あるいは一般などそれぞれに合わせた中で、歴史がどのように活用できるか学芸員を中心に展開しています。子どもを対象とした社会教育的な展開も加速させていて、子どもに身近な博物館をコンセプトにして様々な活動をしています。このように一連の方向性は同じであると思いますが、展開自体に関連性があり、様々なプロデュースされ、やっていくことにより、まちづくりにきちんと歴史が落とし込んでいけると考えます。

もう一点、事例として標茶町郷土館がありますが、こちら月形の樺戸集治監と同じような流れをくむものですが、こちらは入館者数が年間約5,000人のところその2割約1,000人の町民が利用しているということです。学芸員を常駐させ資料や展示を工夫し、学校教育を連携する、様々なイベントの企画や実践を通しながら町民と共にあるということを全面に打ち出しています。このように核となる施設を持っている自治体は、それを中心にして歴史を使ったまちづくりを積極的にされているのですが、それにはきちんとしたビジョ

ンとそれをプロデュースするかたちがあり、横の連携を取りながらきちんとやっていると思われていたのですが、そこで月形町の実態を見ると貴重な資料のある樺戸博物館があり、それから町民も参加する様々な団体もありますが、それらがきちんとしたビジョンでそれぞれの役割を分担する、あるいは同じ思いを共有して活動していくということが不足しているのではないかと思います。そのことをもう少しテコ入れする必要があると考えますが、町長はいかがでしょう。

○ 議長 笹木 英二 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 1点目の博物館網走監獄での事例を宮下議員が言われましたが、私も博物館網走監獄には2度ほど行って参りましたし、理事長以下今野学芸員とも随分親しく付き合っているところですが、博物館網走監獄と網走市役所がしっかり連携してやっているのかということになると、私は違うと思っております。私たちの町の方がより先進的に歴史に対する取り組み、例えば物故者追悼式についても、あそこは網走刑務所教誨師会が主催していますし、今までは市長も出席していないということで、いわゆる矯正関係者だけの追悼式であったと感じています。あそこは北見道路の開拓起点の町であり、そこに1000本のサクラが植えてありましたが、これが経年でサクラの本数が相当減ったということで、今年初めてこの部分を開放して市民が参加するということをされたということです。この2年に渡って博物館網走監獄の理事長、学芸員が私たちの町に来ていただき、私たちの町の進んでいるところ、良いところを評価していただきました。そのようなことでは網走の方にも来ていただきました。今回は網走市の教育長にも来町していただきました。標茶町長にも2か年に渡ってそれぞれ参加していただいたということで、同じような歴史を持つ町が、より交流を深める起点をまず130年の記念式典、地域創造フォーラムで作ったと考えています。そのことで子どもたちの副読本についても私たちの町ではずっと昔から進んでいますし、網走はここ1、2年で副読本ができたということです。そのような指摘をされるところで、決してそうではないと断言したいと思えます

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下 裕美子 私は博物館網走監獄と標茶町の郷土史館を事例に出しましたが、それはあくまでそのような事例をやっているということで、そこが良くてうちが悪いという比較の対象ではありません。うちは独自の色を出しながらきちんとやっていることは十分に理解しますし、月形町の樺戸博物館が二つの所と比べてはるかに資料的価値が高いことも事実です。取り組みの参考として、地域の方々とより根ざした例えば博物館網走監獄はNPOで独自展開をしている独自採算性を取っていますが、それを元にビジョンをきちんと提示することによってそれらがうまく廻るということで、そのような展開は今の月形町に

はありません。そこで行われているより良い部分を取り入れながら、うちの町で不足しているところを補うことが重要ではないかと思います。その点でうちの町は連携が不足していると思うので、連携について今後どのように展開していくのか、もう一度、お伺いします。

○ 議長 笹木 英二 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 抽象的なことが多くて、連携が足りないということで、どこも連携が足りないのだろう。私たちとしては博物館の名誉館長、資料館の説明員の皆さんともきちんと連携を取りながらやっているつもりです。物故者追悼式においても多くの町民に参加していただくための招待状を送付し、この町の歴史をしっかりと学び取って欲しいということで、中学生にも参加してもらっている。具体的にどこが連携していないのか、答えようがありません。

○ 議長 笹木 英二 この質問については3回終わっていますので、この件については、終わっていただきたいと思います。宮下裕美子君。

○ 議員 宮下 裕美子 今の質問について3回終わりましたので、十分議論を尽くしたと思っていないので、先の質問で少し触れながらやって行きたいと考えています。